つて、彼麼空氣の風景はないか構圖はないかと徒勞することもある。兎に角、得手勝手すぎるのは困つたもので、自己衷心の高い草でもないのに、色彩が乏しいの、構圖が惡いの、少し毛色が異へば私にどうもわからむ、と畫家の苦心はどこにあるやらそんな考へもなく、早速隨感直入的に言つてのける、甚だしいのは作者を踏みつける、誰々は弟子や塾生より下手だよなどは平氣なもので、自分の片足とられて居るのに自迷語をつらねて居る、藥に飲んで毒にするのはアマチュアの繪畫規賞法だとさ。

何時までたつても時の力の偉大なるを知りつつ上達せないのは種々風説にあるごとく、自己を見出さぬためと、態度の不眞面目等より出來るものであつて、自己力量の不充分に眼が肥え過ぎたりするからであつて、一つは安定するからであらうと思はれる、自分はアマチュアであるから等はよく耳にする言葉である、アマュチアでも上手の境域に達する方がよい、何をやつても眞摯なのがよいと思ふ。これが我々の美術に對しても貴重なる格言である。

私一個人としての作品は、昨今の境遇がしからしめる故か、頭が理論的、情熱的、哲理的、に動いて頗る冷靜になつたのはよいが、ふくらなる感情生活の一部分に眼を喜ばし頭の靜養をする餘地たるべき繪畫そのものに就て、かなしい生の執着にとらはれて終つて幾分にも幼い時分の蜜蜂の樣な氣分も玉蟲のやうに甘い歡樂の少年時代も過ぎ去らうとして青年時代の枯談に捉はれやうとする。そこで繪畫――美術に離れむとして別れることの出來ない愛着やみがたい分子はあつても、私の作品は頗る過去二三年よりも拙劣となつて終つて、デッサンの必要は二三年もやれば物の形だけでも寫せるやうになるだらう位に廢退して終つた。頭兀げても心配するなとは近頃の流行唄の何んて間がいいんでしやうにある如く、これでも帽子冠れば立派な紳士に見えるのは心うれしいが私は私の審美眼によりて永久私の作品も出來ることと樂觀して居る。水彩畫は私の娯樂的分子の多い高貴な貴族生活よりも充實して居るのである。

三越洋畫展覽會の水彩畫

大阪　富岡洗帆

舊白馬會の出品展覽會は十一月一日より開催された。總數三百點餘、水彩畫は其内三十餘點であつて大幅も多くは油畫の方にあつた。

三宅氏の作十餘點構圖も月並だし色彩も皆同じようで僕は感心しなかつた。中で「樹木流」は好もしい作である、

中澤氏の「鴨川の雨」あまり雜とした筆づかいで雨らしくわ見えるが僕等には分らぬ「淡路島のパステルは目錄を見ぬ内はみづゑだと思つた南氏の作品十枚ばかり過半は外國での作である、「瀨戸内海」が一番よかつた。

瀨野氏の出品四點小品ではあゐが皆丁寧の作だ、「追分にて」は美しく「古驛」の構圖も變つて居るそしてしめつた空氣の感じ

も出て居る、

石川欽一郎氏の作五點皆臺灣での作で例の簡潔な描方で「河岸」の人物等皆一點で描かれてあり乍ら皆活動して居る氏の使用する色は美しくて見あきのせぬ色だ、「葱畑」、「竹籔」共に好な畫であつたが光線の工合と高くにあつた爲めよく分らなかつた。以上は感じた儘である、盲評多謝

あこがれ記

豊州　片葉子

○萬朝報なら文藝消息、讀賣新聞ならよみうり抄。帶封を切る手の動作をもどかしくわが飢ゑた眼はすぐそこに落ちて行くのである。如何にもこの小さい活字の狹い範圍を歸るべき天國の樣に思つてゐるのかしら。實に蘆花が歩して永遠を思ふに足るといつたわが家の富を思はずには居られない。

○ある新聞紙は某氏が渡歐の報を吾に齎した。この報に接した吾は同時にさる美術家通によつて氏の年齒が吾に伯仲であることまでも併せ知り得た。そして一種の恥しき反抗を感得した。噫かくして吾といふ吾は花が咲かないで枯れてしまうのではあるまいかと。

○如何なる天秤を使用したなら自己の天才を量り得るだらうか。學生時代の甲の符號や先生の稱讃といふ樣なものが果して信頼すべきものだらうか。ナショナルのウエストの記事とわが母の肖像の失敗との比較に於て何だかおぼつかない感じがするではないか。

○山に趣味を持つてゐるのやれ人體が面白いのとよく口にいひたがる。心にもいくらか思つてるらしい。然し繪が出來て見るとそれはいつもいつも海の繪ばかりではないか。やはり吾は海の人だつた。人や山といつたのはあれは他人の聲だつた。さまよへる趣味といふ鏡に反映した影はあまり面白くもないではないかと思つて見た。

○定見なき趣味は畫面に自我の光をきらめかすことは出來まい。人が紫といへば紫。外光といへば何も彼も外光。かかる不定見が常に眞を僞るのではあるまいか。僞の中に何が美てある。吾にはだれがどういつても畫布の上の眞はすぐに美であるとかう思ふ。

○美の影を捕へようとするものはあながちに美術家のみでもあるまい。美を愛するといふ所謂審美的情操は人間の本能的一徵證ではあるまいか。

○吾はその美をあらゆる所に發見し得る人を美術家とするのである。美は人間到所にこれあるのである。わが眞卽是美の見解からして眞なる所にはいつも美の影を潛めてゐるべきである。その影を捕へなければ藝術は遂にその意味が有しないのである。

○虛飾は美の反對で醜である。うまさうな言いふて尻の皮のはげるのと天眞爛漫にしていつわらぬのと何れをとるか。虛飾にだまされて醜と感じない底の人はとても美術家たり得るの要素